

マネジメントコース研修生のつづき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース(※)の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感を述べたものです。

※ 自治大学校における一年間の研修であり、研修期間中の概ね半分は自治大学校における実務に参画し、もう半分は通常の研修(第1部課程等)を履修することにより、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

9月初旬、マネジメントコースの研修生である私は約4か月間にわたる第一部課程の研修を終え、再び自治大学校教授室に戻ってまいりました。自治大学校は10月に入ってから新たに第一部課程の研修生を迎えております。研修生の皆さんの姿を見ると、ついこの間まで私自身が参加していた一部課程の研修生活が思い出されます。

私は研修に入る前、自治大学校を卒業した地元の先輩方から研修生活について様々な話を聞いていました。先輩方は揃って、「研修生活は夢のように楽しかった」、「叶うならもう一度、自治大生に戻りたい」とその魅力を熱っぽく語ってくれましたが、研修に入る前の私はそのような話を聞いたところで、なるほど自治大学校の敷地に一歩足を踏み入れれば、そこには夢の国が広がっているのか……といった単純な期待を抱くこともできず、課題はこなせるだろうか、グループ討議についていけるだろうか、そんな不安で胸がいっぱいでした。

自治大学校から立川駅へと続く道のりに、立川サンサンロードという自転車・歩行者専用道路があります。いま私は、冬のイルミネーションに彩られたその通りを、研修生と語り合いながら歩いた楽しい日々を思い出さずには歩くことができません。実際の研修生活と言うと、演習や効果測定の前準備に追われ、決して楽ではなかったのですが、少しばかり苦勞をしてこそ、過ぎさった日々は美しい思い出になるのかもしれない。ともあれ、最初は不安な気持ちを抱えていた私も、今では「研修生活は夢のように楽しかった」と感じていることは事実です。

この「自治大からの情報発信」を読んでくださっている自治体職員の皆様の中には、自治大学校の研修に参加することを迷われている方もいらっしゃるかもしれません。「自治大からの情報発信」を通じて、自治大学校の魅力を少しでもお伝えすることができ、そうした職員の方が研修への参加を決心される際の一助となれば幸いです。

(A.K)

